

子育ての悩みに寄り添う絵本

子育てと絵本 vol.21

言葉が発達していくための土台となるものは、身近な人と気持ちや状況を伝えあう力、コミュニケーションです。生まれた時から授乳やおむつ交換時に「おなかすいたね」「気持ち悪かったね」「おいしかったね」「きれいになって気持ちいいね」などの声掛けをしたいものです。気持ちの代弁もしています。

語彙が増え二語文三語文になると、言葉のリズムが分かったり、簡単なしりとりができたりして、言葉を楽しむことができるようになります。子どもたちは「ことば遊び」が大好きです。

絵本「ことばあそびうた」。かえるかえるは みちまちがえる むかえるかえるは ひっくりかえるー。昭和48年初版のロングセラー絵本です。子どもたちは言葉の理解よりも先に、テンポのよさ軽快なリズムで「ことば遊び」を楽しみます。

遊び その4 「ことば遊び」

「ことばのこぼこ」。作者は「ことば遊び」について『すべての遊びと同じように、言葉あそびの根本も“子どもの心”だ』と言っています。しりとり(尻取)や、逆さ言葉(倒語)、上から読んでも下から読んでも同じ言葉(回文)、ダジャレ(駄洒落)、オノマトペなどが、18のこぼこにギュッと詰まっています。日本語の豊かさ面白さが感じられる絵本です。

どちらも「ことば遊び」絵本ですが、文や絵に時のうつろいも感じられ、このような遊びで日本語に親しみ、日本語の深さを知り、表現するようになっていきます。

ここ数年来「やばい」という言葉が溢れています。良いことでも悪いことでも「やばい」という単語ひとつで表現されています。日本語は豊かな感情を表現できるさまざまな言葉が存在しています。それらの感情表現を知ること、自分の気持ちを言葉で相手に伝えることができます。

し、相手の気持ちも理解できるようになっていきます。

豊かな表現ができるよう、まずは言葉の楽しさを味わいましょう。言葉遣いは心遣いにつながります。

今回ご紹介する絵本



ことばあそびうた
詩 谷川 俊太郎
絵 瀬川 康男 福音館書店



ことばのこぼこ
作 和田 誠
瑞雲舎

子育てひろっぱ「めぐみ」代表 弘田 恵子

1998年から20年間高知市内の「めぐみ保育園」で園長を務め、現在は妊娠中からの悩みサポートを行う。助産師、看護師、保育士、幼稚園教諭(二種)。絵本専門士(国立青少年教育振興機構認定)。上級睡眠健康指導士。アンガーマネジメントファシリテーター。Think the Earth SDGs for School 認定エデュケーター